

Library News



大山崎中学校図書館

令和7年7月

猛暑には読書

毎年嫌だなあと思うことの多い梅雨もこんなに早く明けてしまうとなんだか恋しいような気になってしまいますね。いきなり猛暑日の続く毎日になってしまって、心も身体も追いつかないこの頃です。こう暑いと、もう気分は夏休み。図書室も夏休みにおすすめの本を中心にたくさんの本を用意しています。いつもはあまり読まない長編にもぜひ挑戦してみてください。また図書室は読書以外に自習室としても活用できます。友だちと宿題をやるもよし、一人で静かに勉強するもよしです。

今年は8月1日から大山崎町の公民館図書室が建て替えのため、貸出しが中止されます。ぜひ、中学校図書室をご利用ください。

夏休み特別貸出し・臨時開館

以下の日程で夏休みの貸出し、開館を行います。ご利用お待ちしております。

一人5冊貸出

7/8(火) ~

返却期限 9/3

夏休み開館日

7/31(木)、8/7(木)

10~15時



新着本から

『遠い町できみは』 高遠 ちとせ

母が病死して、父はうつ病になってしまい、小6の翔は遠い海辺の田舎町でサーフショップを経営している叔母の家に預けられることになった。環境の激変にとまどいながらも、翔は同い年の大也、美波とサーフィンを通じて心を通わせていくが、大也も美波も家族との間に問題を抱え、苦しんでいた。小6から中3までの思春期を子どもではどうすることもできない大波に何度もさらわれそうになりながらも、あきらめることなく乗り越えていく翔たちに勇気をもらえるような小説です。

『わたしは食べるのが下手』 天川 英人

葵は小食で食べるのが遅く、給食はいつも食べきれず残してしまう。そんな頃、中学校で始まった完食月間なるおそろしいキャンペーン。クラスごとに残食を計って、順位をつけて、賞品まで出るという。「私がいたらこのクラスは絶対1位になれない。みんなの視線が怖い。もう、無理」と絶望し、ついに給食を保健室でしか食べられなくなった葵。でも保健室には咲子という先客がいて、咲子もまた…

『アルプス席の母』 早見 和真

真夏の甲子園球場、アルプス席。そこから菜々子はグラウンドを見おろしていた。息子の航太郎が見える。菜々子はあらん限りの声を出して息子の名を呼びながらこの3年間のことを思い出していた…高校野球の話ですが、選手よりも応援する母親を主人公としています。子ども以上に激しい親同士の確執や悲しみ、悔しさ、そしてそのすべてを忘れさせてくれる喜びを描いた本屋大賞2位の小説です。

『3倍速ドッペルゲンガー』 久米絵美里

自分の近未来予測が当たり前になった世の中。人々は未来予測動画を見ることをドッペル再生と名付け、3倍速で見ることで、自分の未来を知り、不都合があると現在の自分の行動を変えて、失敗しない人生を送るのだ。高1の夏休み、明人はクラスメートに誘われ、ドッペル再生をせずについてまで生きられるかのゲームに加わった。未来を知らずに生きることが果たして可能なのか？予測できない夏休みが始まった…



司書のひとりごと 昨日の本棚から 『ラウリ・クースクを探して』 宮内悠介

わたしはラウリ・クースクのことを書くため、エストニアにラウリを探す旅に出た。

1977年、ラウリはソビエト連邦の中の一國、エストニアで生まれ…… 感情を抑えた

淡々とした筆致で語られるラウリの人生は何かを成し遂げた英雄というわけでもなく、ただ時代の波に翻弄され続けただけにすぎません。なのに、こんなにも熱く胸を打つのは何故でしょう。人は無名であっても懸命に生きることによって誰かに美しい何かを残すことができるのです。この静かな小説が高校生による高校生直木賞に選ばれたことになぜか不思議と安堵する私でした。